

神奈川県特命子ども地域アクター養成アクション
第6回かながわ子どもの地域参画推進会議事録

日時：平成24年10月7日 18時半～19時半

場所：関内リスト本社5階会議室

出席者

NPO 法人ミニシティ・プラス	副理事長	岩室晶子
NPO 法人ミニシティ・プラス	理事	中聡美
NPO 法人ミニシティ・プラス	会員	杉山昇太
NPO 法人ミニシティ・プラス	会員	松田香
NPO 法人ミニシティ・プラス	会員	森山真稔
神奈川県	県民局青少年部青少年課	鈴木かおり
リスト株式会社	CS企画部 次長	松本紀明
NPO 法人	横浜プランナーズ・ネットワーク理事長	山路清貴
オブザーバー参加		
慶応大学学生		奥津憲聖

<協議・承認事項>

1. フォーラムの方針について 資料 こども地域アクター合同会議

(1) フォーラムの概要

- ・岩室より概要の説明がなされた（資料参照）。
- ・ターゲットは大人に置く。
- ・スケジュール案は13時～15時：ホールを使用した発表／15時～17時：子どもによるポスターセッション@ホワイエ
- ・配布資料部数を把握したいので、資料がほしい人はできるだけ事前予約をお願いするという一文をチラシに入れる。
- ・ホール収容人数は全812席。100名は子ども・保護者・関係者で埋まる見込みだが、最低200人の確保、目標を300人とする。800人収容のホールに300人だと寂しい雰囲気になるので、客席を区切るなどをする予定。
- ・報告書と発表資料は同一ではない。発表資料は、写真と説明でこの活動の意義が伝わるものにする。HP上でダウンロードできるようにする予定だが、まずはフォーラムに来てほしいので、開催後にダウンロードできるようにしたい。

(2) 広報、集客協力についての検討

- ・県の広報協力としては以下の3点を予定。①11月発行の県のたよりに掲載予定。ただ、記者発表を行う場合は、10月25日までにを行う必要がある。②ちらしを学校に配布することも考えていたが、大人が対象となるので、再考する必要がある。③11月21日お昼前のNHK-FMラジオの枠でフォーラムを紹介する予定。
- ・「子ども」「まち」というキーワードで活動している団体は多く、集客は難しくないだ

ろう。ポイントは、フォーラムが一方向の発表で終わるのではなく、関係者以外にも壇上に上がってもらうような企画が必要。

→17 団体の人に関係者への声かけをお願いする。

→広報に向けて、来場者も主体的に参加できるフォーラムになるよう内容を検討する。

(3) フォーラム発表形式・内容

- ・岩室より、写真と解説ではなく、音楽や寸劇を入れて伝わりやすくしたいとの説明。
- ・新しくやるより、17 団体がアクターがやってきてきた成果をみせる。現場感がぶれてしまうのがもったいないので、発表を聞いて、現場のイメージが湧くものがよい。お客さんに、活動が全部見れたらもっと面白いよ、ということが伝わるステージに。
- ・テーマは、子どもたちとまちづくり団体の輪をフォーラムでどう広げるかということ。第3者が入ってくることの刺激もあるので、2 部目はディスカッションなど、来た人とやりとりができるといい。
- ・以前、行政で子ども事業を扱っている関連者に話したが、あまり反応が良くなかった。「アクター」という言葉はわかりやすく、外部の人にもピンとくる写真などの材料を使う方がよい。
- ・まちづくり団体の人に、アクターが来て気付いたことを発信してもらう。子ども側の優秀さよりも、「子どもの世話をしないといけないので面倒」という印象を払拭するため。「来てくれてこれだけよくなった」ということを大人が伝える。
- ・まちづくり団体にも、募集動機は様々である。(県のサポートがあって信頼できるから、子どもが来てくれるからなど)。発表するかは別として、そのカテゴリ別の結果を整理していく必要がある。
- ・お見合い会後に、「うちの所に子どもは派遣されますか？」という問い合わせが多く来た。お見合い会の前後の時はなにか手続きが多くてめんどくさそうなところもあったので、お見合い会を経て子どもたちに来て欲しいという気持ちが本当に起きたのだと思う。そのギャップに驚いた。
- ・アクターの派遣も受け入れも両方やっている立場として話すと（リスト）、アクターに来てもらって見落とししていたところが出てくることがあった。一方で、子どもの扱いに不慣れな所はある。すぐに完璧な受け入れ態勢ができるのは無理で、子どもも大人もお互いに刺激し合うことが必要。
- ・二部構成になっているので、パネルを置くだけではなく子どもとのやり取りを。子どもも3.4人とスタッフ1人のグループの小さいお店を開いて、来場者が20人-30人くらいの単位で訪れるイメージ。
- ・17のまちづくり団体に、派遣後のヒアリングをする必要がある。
- ・派遣を受けてのアンケートはまだやっていない。終わったところからどんどん聞いていく。全体でどんな結果が得られた、ということを示すよりも、個別の意見が大切だ。
- ・アンケートの構成としては、①アクターの派遣を受けての感想 ②現場ごとに個別の質問 ③来年やるとしたら、改善するところ（まちづくり団体／アクター／事務局にむけて）などのシンプルなもの。
- ・以前行った、お見合い会後の交流会がすごく好評だった。その後、お互いの現場を見

に行ったりしていたようだ。なかなか一斉に集まることがないので、まちづくり団体の大人会議があれば行く意味が上がるかもしれない。

→2部構成の後半の形式についてインタラクティブなものにできるか検討

→まちづくり団体に派遣後のヒアリングを行う。発表してもらえるかも相談。

→フォーラム後の交流会を検討。

(4) 会計予算について

中より説明がなされた。

- ・未消化や超過はなく、順調に予算が使われている。
- ・報告書を充実したものにしたい。
- ・外部用に、来年の呼び水になるような4 pから8 pの冊子と、詳しくまとめたものは別で必要。詳細にまとめる報告書では、こどもの感想をそれぞれからもらうのも良い。

(5) その他 派遣終盤での感想

- ・部活が忙しくなって1回しか参加できなかったアクターもいた。
- ・中高生は、部活に入るか地域に入るかの二者択一。部活との戦いがある。
- ・部活は成績に貢献するので入部を推奨されるようだが、アクターのような活動も、AO入試などで成果が**上がる**ことが見込まれる。
- ・部活が生活のモチベーションになっているようで、災害ボランティアのアンケートでは、引退した運動部の子などが多かった。(他の活動での事例)
- ・各学校に「アクター部」を設置する、くらいの動きにつなげたい。
- ・スポーツゴミ拾いを行っているリストでは、イベントに加えて大会も開いて、年中関わる循環をつくっている。1回目のハードルより、2,3回めの参加のハードルが高い。
- ・つづきジュニアに比べて、アクターの募集は集まりが良くなかった。編集、取材という分かりやすいプログラムがなく、内容が見えないことで不安になるのだろう。次回は活動のようすが報告から見えるので、参加しやすくなると思う。
- ・「自由にしている」というのが大人も子どもも一番困るようだ。でもそこが大切。
- ・子どものバリエーションも多様だった。年齢の幅もそうだが、バイト・部活・受験勉強をしながら参加している子どもが多かった。参加活動から得るものへのモチベーションが高いと見えた。

2. 今後のスケジュール確認

11月11日 午前10時～12時 第7回推進会議

※以前11月18日としていたものが変更になった。

12月2日 10時～17時 発表フォーラム(前日準備を行う)

12月から3月には来年度についての打ち合わせを行う必要がある。

以上。(文責 松田)